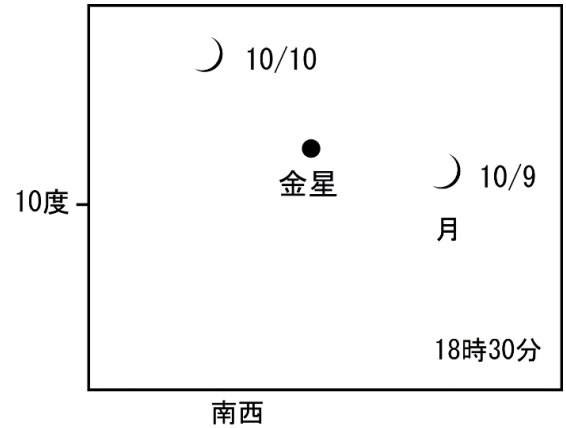


9日(土)～10日(日)、夕方、南西の空で、月と金星並んで輝く

9日(土)の空が暗くなり始める18時30分ころ、西の低い空に三日月が輝いています。この三日月のすぐ左に輝くのが、金星です。右の図のように、高さが低いので見つけにくいかもしれませんが、天気にも恵まれれば簡単に見つかるはずです。ただし、見晴らしがいい所でないとなかなか見えないので、西の方向に障害物がないところで観察してください。

そして、10日(日)は、金星の左上に月が移動しますが、まだかなり接近した状態が続きます。その後、そして、11日(月)になると、月は金星の左上に離れて、今回の接近は終了となります。

金星は、大変明るい星ですので、18時ころには、見えています。このころに見ると、夕焼けとともに楽しむことができるでしょう。



14日(木)～15日(金)、南の空で、月と土星、木星が並んで輝く

14日(木)の19時ころ、ほぼ半分に欠けた明るい月が、南の空に輝いています。この月の上側に見える星が、土星です。土星は1等星より明るいのですが、月がまぶしいほど明るいので、注意深く探してください。そして、月から左側へ少し離れて輝く星が、木星になります。木星は大変明るいので、すぐに分るでしょう。そして、翌日の15日(金)の19時ころには、月が木星の下に移動します。この日は、月と木星がかなり近い所で並び、たいへん目立つ存在となるでしょう。

21日(木)、明け方、オリオン座流星群が極大

21日(木)～22日(金)の明け方、オリオン座流星群が極大を迎えます。流星群の流星は、彗星がまき散らしたチリが地球に飛び込んでくる時に光って見えるものです。この流星群は、有名なハレー彗星がまき散らしたチリが元となっています。このため、毎年安定した数の流星が見られます。オリオン座流星群は、流れるスピードが速いのが特徴です。ただ明るい流星があまりなく、2等～3等星くらいの流星が多くなる傾向があります。

極大を迎えるのは、21日の20時ころです。オリオン座流星群は、オリオン座が昇るまでは流星は見られません。また、オリオン座は21日の22時くらいに東の空から昇ってくるのですが、オリオン座が低い時には、あまり見る事ができません。

このため、多くなるのは、21日の深夜から、22日の明け方近くになってからでしょう。なお、この流星群は、極大のころが長く、20日～25日くらいまで続きます。よって、必ず21日深夜から22日の明け方に見なくても、他の近くの日でも見る事ができるのです。

なお、今年は、ほぼ満月の月が夜空に輝き、あまりよくありません。このため、実際に見える数は、空の条件の良い郊外で、1時間あたり5個程度。松山市内では、1時間あたり数個程度でしょう。明け方は、冷え込む時期ですので注意してご覧ください。

秋の星を見つけよう

右の図のように、秋の四辺形を使うと見つけることができます。見える時刻は、10月上旬の22時ころ、下旬ですと21時ころです。そして、見える方角は、南の空を見た時の様子です。右が西、左が東、下が南で上が北になります。

さて、秋の星の見つけ方ですが、たとえば、秋の四辺形の右側の辺を結んで、南側に伸ばすとフォーマルハウトが見つかります。この星は、秋の星座の中でただひとつの1等星で、秋のひとつ星や南のひとつ星と呼ばれます。今年は、フォーマルハウトの西側のやぎ座に木星、土星が輝きいつもとは違った姿になっています。

また、左側の辺を結んで、同じように南側に伸ばすと、くじら座のデネブカイトスにたどり着きます。

いっぽう、左側の辺を結んで北に伸ばすと、カシオペヤ座(となりにケフェウス座があります)をとおり、北極星へたどり着きます。

このころ、秋の四辺形は、ほぼ頭の真上に輝いています。まず頭の真上を見上げて、四辺形を見つけ、秋の星座たちを見つけてみてください。

なお、10月は20日が満月になります。満月のころは、月が明るく星が見にくいことがあります。星座を見つけるには、上旬か月末がいいでしょう。

